令和５年度　奈良県スポーツ推進審議会　第２回定例会　議事録

１　開催日時　　令和６年２月１日（木）　14：00～16：00
２　開催場所　　奈良県コンベンションセンター　205 会議室
３　出席委員　　１５名（臨席９名、ウェブ６名）
　臨　席）原田会長、根木副会長、朝原委員、伊藤委員、亀田委員、阪口委員、
　　千葉委員、蝶間林委員、福西委員
　ウェブ）加藤委員、川手委員、田中委員、中西委員、星野委員、松永委員
　　※名簿記載順

〔西川課長補佐〕
・開会

〔舟木部長〕
先生方にはお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げる。
奈良での国体が７年後に迫ってきて、知事とも予算の話などを議論している。その中で、勇気や希望、夢を持たせてくれる、地域を活気付けてくれるようなアスリートを県が育て、そのアスリートに将来奈良に戻ってきてもらい、後進を育ててもらうような良い循環を築いていきたい、ということを確認し合っている。
そうした上で、令和 13 年度に向けた施設の予算や競技力を底上げしていく予算について、先生方のご意見も頂戴しながら、予算計上させていただいたところである。
本審議会で先生方から直接賜った、地域に戻って恩返しや地域づくりに貢献したいというお言葉を、知事にもお伝えした。非常に納得していただき、そういう目標を持って、アスリート、あるいはスポーツ文化の醸成を図っていこうということを確認し合った。
本日もまた、いつも通りの熱い議論をお願いしたい。

〔西川課長補佐〕
・会議資料について説明
・委員の紹介、議事録の公開等について説明
・ウェブ会議場でのマイク使用のお願い

〔原田会長〕
・議事録署名人に蝶間林委員、福西委員を指名

●事務局からの報告
〔宮﨑室長〕
資料４、資料５について報告させていただく。

資料４「橿原公苑リニューアル整備の方針」について、前回８月の当審議会において、従来の県立スポーツ施設の整備計画を見直し、県立橿原公苑の整備を再検討していくことを報告させていただいた。その後、橿原公苑内の各施設について、現状把握や課題整理を行い、県内の他のスポーツ施設との機能分担・役割分担を踏まえて、具体的に検討を行い、先月４日に「県立橿原公苑のリニューアル整備の方針」として「資料４」の内容を公表したところ。

資料のポイントとしては、「子どもから高齢者まで、障害のある人も無い人も、多くの県民が様々なスポーツに取り組める環境を充実させる」という方針の下、野球場・陸上競技場はバリアフリー化や競技環境の向上に向けた改修を実施すること、また、既存の２つの体育館を統合し、新たなアリーナを新設するとともに、武道場・弓道場を整備すること。

なお、新アリーナの競技床面積や観客席数、大会運営に必要な会議室や控室等については、各競技団体や利用者ニーズを踏まえ、今後検討を進めていく。また、様々なイベントなど、スポーツ以外の多目的な利活用ができるよう検討していく。

今後は、橿原公苑敷地の測量や境界確定を早急に進めて、来年度中にはリニューアル整備に係る基本計画を取りまとめたい。橿原公苑の整備については、適宜当審議会でも進捗を報告させていただき、見識の高い審議会委員各位のご意見を頂きたいと考えている。引き続きご協力をお願いしたい。

資料５「第 85 回国民スポーツ大会競技会場地市町村（第１次選定）」について。これまでの国民体育大会（国体）が、本年の佐賀大会以降、「国民スポーツ大会」と名称が変更されている。

資料のポイントとしては、令和１３年（2031 年、７年後）に本県で開催する第 85 回国民スポーツ大会の正式競技と特別競技、合わせて３８競技の会場地について、昨年８月末に開催された大会準備委員会において、第１次として、１２の競技会場地市町村が選定されたところである。選定方法については、１（１）に記載のとおり、令和３年１１月に準備委員会において決定した「会場地市町村選定基準」に従い、選定までの過程については（２）に記載のとおり、市町村の開催希望と競技団体の意向が原則として合致している。

第１次選定の結果は、資料の右側に掲載の表のとおり。全３８競技のうち、「第１次選定」の欄に赤字で星印がある１２競技の会場地が選定されたところである。このうち、黄色のマーカーをしている「１１　レスリング」、「１３　ウエイトリフティング」、「１９　相撲」、「２６　剣道」、「３４　ボウリング」の５競技は、競技会場地がすべて決定している。その他の７競技については、競技に必要な試合会場数に足りていないため、引き続き選定を進めていく。例えば「１４　ハンドボール」は、今回、生駒市が選定されたが、大会には６面以上が必要となることから、今後残り４面以上の選定を行っていくということで、６分の４と記載している。黒丸がついているものは、今後引き続き選定を行っていくもの。

今後のスケジュールについては左下の（3）に記載の通り、３８競技すべての競技会場地が早期に決定できるよう、県としても市町村や競技団体の意向を確認しながら、調整を進めていく。

なお、前回の当審議会において、大会の陸上競技について、大阪市の長居陸上競技場での

開催を検討という報道があった旨を報告させていただいたが、これについては、昨年１２月に奈良市のロートフィールド奈良（鴻ノ池陸上競技場）を会場予定施設とすることを奈良市に承諾いただいたところであり、競技会場地選定に向けて調整を行っているところである。

今後も競技会場地市町村の選定状況を含め、国スポ・全スポ大会準備の状況について、適宜、当審議会でご報告させていただくので、ご協力をお願いしたい。

〔高田課長補佐〕

本県中学校における、休日の学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に関する進捗状況について。

資料 6 について、県では、令和 4 年 12 月にスポーツ庁、文化庁により策定された、学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドラインを受け、令和 7 年度末までにすべての市町村において、所管する中学校における休日の学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行を完了することを目指している。令和 5 年度の主な取り組みとしては、地域クラブ活動への移行に関する事業である、地域クラブ活動環境整備事業を活用し、県内 11 市町の所管する 19 校、25 クラブにおいて、地域の実態に応じた取り組みを進めているところである。

この事業を活用した取り組みは、令和 3 年度に 2 市村を対象として始まり、令和 4 年度は 3 市村、令和 6 年度には、現時点において、17 市町へと拡大しながら、部活動の地域移行に関する事例を増やし、その成果や課題の収集に努めているところである。

また、事業を通じて収集した事例については、各市町村の事業担当者を対象とした、奈良県地域クラブ活動推進連絡協議会において共有し、各市町村が地域の実態に応じて事業を展開するにあたり、参考となるよう努めている。

加えて、今年度は、奈良県部活動改革検討委員会を設置し、中学校の学校部活動や、地域のスポーツ、文化芸術活動に携わる様々な立場の委員から、意見を聴取し、仮称「奈良県地域移行に関する手引き」を作成中である。手引きについては、今月 19 日に開催予定の検討委員会において承認いただければ、今年度中には発出したいと考えており、今後はこの手引きを活用していただきながら、各市町村における取り組みが推進するものと考えている。

その他にも、部活動の地域移行に関する豊富な知識と実績を備えた民間の事業者と県との間でアドバイザリー契約を締結し、全国各地の先進事例の提供や、地域移行に係る官民一体となった取り組みの進め方等についてアドバイスをいただきながら、事業の推進に役立てたり、仮称「奈良県スポーツ・文化芸術指導者人材バンク」の構築に向け、県スポーツ協会様、県吹奏楽連盟様等と連携し、各スポーツ・文化芸術団体が所管する指導者名簿の提供をお願いし、令和 6 年度中の運用開始を目指し、取り組みを進めているところである。

次年度以降は、今年度の取り組みを継続しながら、各市町村が取り組みを進めていく中で、直ちに地域クラブへの移行が困難な学校部活動に対する、部活動指導員の配置の拡大にも取り組み、段階的な地域移行に繋げていきたい。

部活動の地域移行に関しては、地域の受け皿となる組織や団体の確保や創出、新たな地域

クラブが活動する施設や指導者の確保、一定発生すると考えられている受益者負担に対する理解や地域格差など、課題は山積している。今後も課題解決に向け、県としてどのような支援ができるのかを検討しながら、市町村との連携を十分に図りつつ、事業の推進に努めて参りたい。

〔野田課長〕

「第２期奈良県スポーツ推進計画の進捗について」ご報告申し上げる。

資料７について、計画の３つの柱ごとに、今年度取り組んだことと、第１回の審議会以降の事業を中心に説明させていただく。

まず１ページの「Ⅰ　スポーツ参加の推進(体を動かす)」の「１　県民参加型スポーツの推進」については、総合型地域スポーツクラブの活動の支援・活用や、奈良マラソンをはじめとするスポーツイベントを開催・支援することにより、「体を動かす」ことを促してきた。

２の「子どものスポーツの推進」について。２ページ(２)の子どもの体力向上方策の推進について、８月の審議会でもトップアスリートと接する機会が大切だというご意見を多数いただいた。今年度もプロ野球球団オリックスバファローズと連携し、小学生を招待してのウエスタンリーグ公式戦観戦と、野球教室・チアダンス教室を開催した。アスリートとのふれあいの機会創出については、新年度も実施したいと考えている。

３の「生涯スポーツの推進」について、８月の審議会で、亀田委員から橿原公苑のナイトランについて、もっと充実させるべきではないかとご意見をいただいた。現在、月・水・金に実施しているが、昨年１１月に試行的に木曜日も実施した上で、４月から木曜日も実施できるように調整している。時間延長については、スタッフの深夜勤務に繋がることもあり、回数を増やす方向で実施したいと考えている。

参考資料２―６に記載の高齢者の運動きっかけづくりのための事業について、千葉委員にご協力をいただき、県内５つの村に出向いていただき、体操教室、水泳教室を開催していただいた。千葉委員の人気のおかげで多数の方に参加いただいた。この事業はやりっぱなしではなく、受けていただいた町や村において、自主的に継続していただきたいとお願いしている。この輪が広がっていくように、自分たちもしっかり見ていきたい。

資料７、３ページについて。(４)の運動・スポーツのきっかけづくりについて、参考資料２―８を併せてご覧いただきたい。前回の審議会で、松永委員から、運動しない人はいくらスポーツイベントや施設に誘っても来ていただけないので、運動目的以外で立ち寄った場所で運動できる機会があれば、運動実施率の向上につながるのではないか、というご意見をいただき、吹田市の図書館の事例を紹介していただいた。早速当課の職員が視察し、勉強させていただいた。それを活かして「ふらっと＆ちょこっと運動」推進事業と題し、運動に興味のない方が運動目的以外で行った場所で、例えば体を動かす器具が置いてあったり、簡単な教室が開催されていたり、地域のスポーツクラブに関する掲示があったりなど、そういったことをきっかけとして運動に触れてもらおうという取り組みを始めた。まず県内の２施設で取組を始めており、今後、民間のショッピングセンターなどと交渉をしていくので、随

時ご報告をしていきたい。

資料７、４の「障害者スポーツの推進」について、企業版ふるさと納税による寄付金を活用し、１１月にボッチャ体験会を開催した。今月の１８日には、根木委員にご協力いただき、車いすバスケの体験会を開催する予定。その他、記載の取組を行った。

中程の、「Ⅱ　スポーツの推進を支える人材の育成、人を育てる」について、２の「選手の育成」に関しては、前回の審議会で、未来のトップアスリート発掘・育成事業についてご報告をさせていただいた。夏にスポーツ能力測定会を開催し、スポーツ能力の優れた７０名程度を選抜し、秋以降に各競技団体の参画を得て、競技体験会を実施しているところ。この事業に関して、朝原委員、松永委員から、選考に漏れた子どもたちがスポーツを嫌いにならないよう、しっかりとフォローするようにというご意見をいただいた。これを受け、選考に漏れた子どもたちにも、メールで様々なスポーツイベントを紹介するといった特典を付与する取り組みを行うこととした。第１弾として、昨年１２月の奈良マラソンにおいて、ミニ奈良マラソンというジョギングに無料招待したところ、１００名近くの子どもたちに参加いただいた。今後もこういったことを継続していきたい。

４ページ、３の「サポート体制の整備」について、前回の審議会で、松永委員から、ボランティアの登録制度について、奈良マラソンのボランティア制度を集約するなどもっと活用すべきというご意見をいただいた。ボランティアの登録については個人情報のこともあるため、今までは奈良マラソンのボランティアに、県のボランティア制度の登録をお願いしてきたが、なかなか実績が上がってこなかったので、逆に、県のボランティアの募集情報などを奈良マラソンのボランティアセンターの方に流し、そこから奈良マラソンのボランティアに発出してもらう取り組みを始めたところである。このようなことを続けていきたい。

アスリートのセカンドキャリア形成のためのアスリート県内定着プログラムについて、概要は夏の審議会で説明させていただいたが、昨年10月に、アスリートを雇用する企業と、県内で働きながら鹿児島国体でウエイトリフティング２位に入られた方をお招きしてセミナーを開催したところ、30 名の企業の人事担当者とアスリートなどに参加いただき、関心の高さを感じることができた。今後この仕組みづくりを行って、アスリートや指導者が県内に定着して、そこから次代のアスリートが育つという循環を作っていきたい。

最後に６ページ、地域経済の活性化の中にある、スポーツコミッションの検討について。松下アドバイザーから、スポーツコミッションの設立に向けた検討は大切なので進めていくべきいうご意見を前回の審議会でいただいた。今後、原田会長が関わられている日本スポーツツーリズム推進機構の勉強会に参加させていただき、他のスポーツコミッションの意見などを聞いて、設立に向けて検討したい。

●県の報告事項に対する各委員の意見

〔亀田委員〕

国体に向けて、施設整備の面では今が一番大事な時。あと７年後とはいえ、施設のスペックなどは今決めておかなければ、設計が終わり、建設が始まってから後悔があっても遅い。

新設予定のアリーナの規模については、様々な方のご意見をお聞きしながら、より良いものを作っていただきたい。

わかくさ国体から今までの約 50 年間、奈良県のスポーツ施設は他府県に比べると非常に弱い。50 年に 1 回あるかないかの国体に向けての施設整備なので、しっかりとしたものを検討した上で、整備をしていただきたい。

国体だけではなく、国体後の 50 年間の奈良県のスポーツ振興がかかっている。将来の子供たちやスポーツに関係する人たちに、2 回目の国体も素晴らしい良い国体になったし、後にも続く施設ができたと言われるような施設整備を、ぜひお願いしたい。

アリーナも 3000 席ほどということだが、最低でも 5000 席、できれば 8000 席ほどのものを作るべき。

陸上競技場や野球場も含めて、より良いものを目指して、いろんな事例を確認しながら、作っていただきたい。奈良県全体のスポーツの振興がかかっているし、特に中南和地域の活性化にも繋がってくる。今の子供たちの、将来すばらしいスポーツ選手になりたいという夢をつぶさないように、施設整備をお願いしたい。我々もできる協力はさせていただく。

〔原田会長〕

もしバンビシャスがＢ１に上がるのであれば、5000 席というのが最低ラインになるし、ホスピタリティのための付帯施設も必要。そうすると駐車場など様々な問題があるが、民間活力も含めた事業手法を導入することによって、何か生まれるのでは。

今年開かれる佐賀国体では、8000 席のアリーナを作って、当初はどうするのかと言われていたが、今は非常に賑わっており、国体が始まる前からレガシーが機能しているという成功事例もある。奈良県もそういう例を参考にしては。

〔根木委員〕

施設の設備のことを考えると、パラスポーツが関係する部分も多く、アリーナを作るのに意見をもらえたらということで、僕自身も国体、全スポのタイミングで日本中を回っている。アスリート障害者の人たちの意見を聞くという機会は、すごく増えてきている。使う側の様々な人たちの意見を聞くというのはかなり重要になってくると思うので、ぜひ積極的にやっていただきたい。

１月に震災があったが、避難所という部分で見てみると、アリーナは緊急時に使う大きな場所でもある、ということを踏まえて今後の 50 年のことを考えた時に、そういった施設としての要素はどれくらい考えられているか。考えていなければ検討することも重要。

〔加藤委員〕

アリーナはスポーツ施設の中でも特殊で、様々なイベントができ、様々な人が集まる、かなり有益な使い方ができる施設。集客、イベントがきちんとできる施設になるか、誘致できるか。スペック、アクセス、駐車場なども含めてしっかり備わっている施設であれば、50 年

先まで、価値をつくれる施設になるのでは。
　規模として小さいものをつくってしまうと、もう 50 年先までそういう価値が生まれるものは作れないという事態になりかねないので、そういうことのないように。

〔松下アドバイザー〕
　新しい施設を作るとコストセンターになる、という意識が非常に強く働いてしまっている気がしている。最近の施設はプロフィットセンター化することが大きな課題になっている。コストセンターになってしまうという前提、イメージを外し、いかに集客を高め、有効活用できるか。
　バンビシャスの活躍もあり、スポーツが 1 つのエンターテインメントのようにもなっている。施設の在り方自体も、ＤＸ化といったことは当たり前に進めていかないといけないし、インフラの整備や、もちろん規模に関しても非常に重要である。

〔阪口委員〕
　施設整備に伴い、財源の問題も出てくる。奈良県の人口は、24 年間連続して減少しており、一番多い時で約 145 万人だったのが現在は 129 万人である。もう 30 年、40 年経つと 100 万人を切るが、施設ができた時には維持管理費等がかかる。その辺のことも勘案して、人口が減った時でもこういう施設が必要であるという説得力を持って、知事にアドバイスする必要がある。

〔松永委員〕
　以前もお伝えしたところではあるが、橿原公苑のリニューアルに関し、車椅子等のバリアフリー化をするというのは最低限当たり前のこと。
　さらに 7 年後、あるいは数十年後を見据えたところで言うと、多目的トイレや多機能トイレはすでに一般化されてきているが、誰でも使えるシャワー室や更衣室、オールジェンダートイレの議論なども必要である。先を見据えたバリアフリー化は当たり前のことという感覚を持っていただきたい。
　また、こちらも繰り返しになるが、壊れない和式トイレには、なかなか予算がつかない。鹿児島国体に昨年 10 月に行ったが、Ｖリーグのバレーボールの選手が出場するような会場ですら、2 階の観客席のトイレが和式であったことに愕然とした。47 年に 1 回の国体をもってしても変えられないということは、相当ハードルが高いのだと感じた。メイン会場は新しくなれば当然、洋式化やバリアフリー化がなされていくと思うが、会場地が選定されていく中で、各市町村の会場も、予算が難しいところではあるが、防災の観点で避難所等になる体育館、スポーツ施設、公共施設ということを考えると、最低限の洋式化を推進してもらうために、各市町村に対し補助金を付けるなど、積極的に進めていただきたい。
　このチャンスを逃すと益々遅れていくということになるので、ぜひご議論いただきたい。

〔原田会長〕
バスケットボールなどの会場はこれから選定されるのか？

〔事務局　宮﨑室長〕
バスケットボールも含めて、国内での、主に球技競技については、各市町村に体育館がある。これまでは橿原公苑の動向、アリーナがどうなるかということで決まっていなかったが、方針が出たので、今後これに基づいていろいろ決めていきたい考えている。

●これからの地域スポーツの仕組みづくりについて
〔伊藤委員〕
御杖村は人口 1400 人で、高齢化率が 58.5%。高齢者が多く、スポーツという概念自体が村民に理解されていないかもしれない。そんな中、昨年 10 月に千葉委員に来ていただき、24 名ほどの村民と一緒に体操をしてもらった。終了後、参加者に感想を聞くと、大変良かったとのこと。また、やはりオリンピック選手の方に来ていただくというのは、どこか違うのだなと感じた。参加者は普段なかなか運動をしないような高齢の方で、どうすれば日常的に運動してもらえるかが課題。村としてもこれまで健康体操をやってきて、それがあったからかはわからないが、少し参加者も増えている気がする。やはり、国際的な大会や国内の大きな大会に出場された方に来ていただくのは、ＰＲ、広報的な部分が大きいと感じる。この事業はこれからも、特に過疎地域、私どもの村のような山間地域については、継続していただきたい。
また、学校、子供たちのスポーツに目を向けると、団体競技もできない現状である。本村では２年前に、人口、生徒数も減ってくる中、校舎一体型の小中一貫教育に変わった。すると小学生と中学生が一緒になったことによって、小学生も中学生と一緒に部活動をやっていくという環境ができた。小学生も中学生と一緒に体を動かし、少し本格的な活動のやり方を見ていく中で、興味が出てきているように感じる。これからの子供たちの地域スポーツという話が出ていたが、指導者もいない、来ていただくにも地理的に遠い環境では、どうそれを解消していくかということもこれから考えていかなければならない。
少し実情と、千葉委員に来ていただいた報告と感想をお伝えさせていただいた。

〔千葉委員〕
去年、5 つの村に行かせていただき、私も非常に楽しかった。駅前や都会といった恵まれた環境にいる人は、勝手に運動ができる環境だが、そうでない方たちと触れ合い、体を動かして、笑って、雑談する。そうしたことがとても楽しく、それが健康になるということだと感じた。一発屋の事業ではなく、毎年継続してできる限り続けさせていただき、1 つでも多くの場所に行かせていただきたい。
高齢者だけでなく、過疎化の進む地域の子供にプールを教えにも行ったが、村や山の子た

ちはバスを利用するので、逆に足腰を使っていない、全然運動が足りていないということがわかった。そうでなくても全国的に運動能力は下がっており、体力が衰えているのに、さらにひどくなりゲームばかりしているということに危機感を抱いている。子供たちのことも考えていく必要があると感じた。中学生もどんどん部活ができない環境になっており、どうにかしなければならないが、先生の負担もある。考えるだけでなく、1 つ 1 つ行動に移し、動いていかないと、話が始まらない。

〔原田会長〕

山の方では大人も車が 2 台あり、かえって運動不足というのを聞いたことがある。

小中一貫校というのは、非常に良いソリューションの 1 つ。

〔中西委員〕

最近、発達障害の子どもが増えてきていると聞く。ある調査では 4 人に 1 人が何らかの障害を持っているとのこと。文科省から 2022 年に実施された調査では、小学生の 10.4%が発達障害という結果だが、これは無視できない数字。こういった子どもたちのことを考えて、何か取り組む必要があるのではないか。

子どもの数もどんどん減ってきている。この施策については国でも考えていただかなくてはいけないが、今いる子どもたちにも、子ども時代に自由に楽しく、遊びや体を動かすことに取り組んでもらうことが大事。奈良の方でも実現していただきたい。

情報発信、無関心層の運動スポーツのきっかけづくりについては、やはり奈良県の将来を考えると、子ども時代に運動に親しむことが大切。子ども時代に運動に親しむことは、体の発達に繋がるとても重要なことだと、推奨していく必要がある。子どもが大人になってから考えるのでは遅い。ぜひその辺を考えていただきたい。

〔朝原委員〕

私自身はジムには行かないが、山に行き、自然の中で体を動かしている。

千葉委員の事業のようなきっかけづくりも大事だが、一人の講師がそんなに毎年何市町村も回れないので、全く体を動かしたくないという人たちが、どうやったら体を動かすかということを考える必要がある。先ほど図書館の例があったが、やはり何かのついででないと運動をしないと思う。以前、松下アドバイザーが言っていた、カレーを食べに集まるという事例のように、何か用事を作り、そこまで行くのにまず運動をする、行った先でもトレーナーがいるなど、とにかく用事を作らないと、運動をしに行くために出かける、と言うのはやらない。どれだけこれはためになると説明しても、そういう方々は運動しないと思うので、何か用事を作って、人と人が繋がるということを、まずやらないといけない。スポーツの前に何かまず 1 歩踏み出して、何でもいいから外に出る用事を作る。1 人では絶対に外に出ない。仲間づくりから始めて、仲間の 1 人からこんな楽しい運動があると聞いたら一緒にやるかもしれない。そうしたきっかけづくりが大事では。

〔原田会長〕
海外ではソーシャルサポートボランティアが孤立している人を誘い出して、一緒に公園で運動するという仕組みもあると聞く。今の意見から良いアイディアが生まれたら良い。

〔松永委員〕
吹田市に視察に行かれ、すでに「ふらっと＆ちょこっと運動」の事業を始めているという報告を聞き、奈良県の意気込みを感じた。迅速かつ素晴らしい対応だと思う。
朝原委員のお話のように、やはり運動、スポーツをしようと言ってする人は、もうやっている人。もう少し背中を押したら運動をするという人も、比較的アプローチできる。しかし、やらないといけないと思ってはいるが全く一歩を踏み出せない、あるいはやらなければいけないとも思っていない人たちに、どう働きかけるかというところで、改めて図書館の話をさせていただく。
図書館内では、週 2 回、15 時にラジオ体操が館内全体に流れ、そこにいる方が一斉に体操をする。図書館でラジオ体操を流すなんて普通は考えられないこと。クレームも来るかもしれないが、周知の徹底や持っていき方について、これまでとは違う工夫をすることで、そういったことが実現する。
近くに公園がありラジオ体操が始まる時間に図書館の中に入ってくる人もいる。うるさいと思う人もいるかもしれないがクレーム等はなく、その時間に行かなければ良いと思っているかもしれない。
いろんなアイディアについて、できないのではなくやってみるということがとても大事。私たちの当たり前はもう当たり前ではない時代。様々な取り組みについて情報収集を行い、新たに実施されることには賛成である。
足立区の図書館の成功事例を紹介すると、幼児期のお子さんがおり、外出もままならないという方が絵本コーナーには多くいるので、絵本の読み聞かせの時に、お母さんもお子さんを足の上においてストレッチができるプログラムを行っている。
「ふらっと＆ちょこっと運動」は、比較的お金をかけずに展開できる事業。これから奈良県で展開するにあたって、ターゲットを絞った上で、どこでどういったプログラムをするのが良いのかも踏まえ、今やっていただいてる活動をさらに広げてほしい。

〔蝶間林委員〕
部活動をするにあたり、施設や環境がとても大切。子ども、大人、高齢者と 3 つに大きく分けた場合に、子どもは小学校 4 年生ぐらいまでが神経系が急速に発達する時期なので、それくらいまでの子どもたちには、体を動かすということと同時に、指先や四肢をうまく動かすリズム感をつけるといったことが将来とても大切になってくる。
小学校の先生の中には運動嫌いの人もおり、運動が好きな先生とはっきり分かれてしまう。小学校の先生と、そして親がスポーツ好きでないと、子どもは運動好きにならない。親

への啓蒙をどうするか。そして、体育館などの施設をいかに活用するか。両方考えていかなければならない。

私は横浜市で学童保育の中でテニスを教えているが、最初はみんな全然できない。少し教えていくと、90 分の間にかなり打てるようになる子もいれば、なかなかできない子もおり、できない子をどうやって拾っていくか。これが今大きな課題になっている。いずれにしても子どもが楽しんでいるのが一番の喜びだが、そうした子どもの教育とスポーツの関係が大きな課題だと思う。

高齢者については、膝や腰に大きな負担が出てくるので、それをいかに減らしていくかを考えると、医師や学校の教員も含め、みんなで様々な啓蒙をしていく必要がある。そしてその予防運動を、県としても考えてはどうか。

〔根木委員〕

スポーツの価値や意義について話をさせていただく。

私は日本中の学校に行かせてもらっているが、オリンピック、パラリンピックのコンセプトのように、スポーツを通じて共生社会や多様性を広げていくことがスポーツの価値の 1 つであるが、これはどんどん広がっていったと感じている。大会が終わっても、パラスポーツの依頼が増えている。パラスポーツだけが共生社会や多様性を伝えるものではないと思うが、それを伝えようと積極的に取り組んできた結果だと思う。

長野県ではパラウェーブ NAGANO という事業に県が取り組んでいる。パラスポーツのウェーブを通じて、共生社会を作っていこうというもの。もともと長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催されたこともあり、パラスポーツの価値のようなものを、長野県は前から持っておられた。しかし完全に展開しきれていなかったので、もう一度仕組みから作っていこうと始まった。

多くの方が取り組めるプログラムのあるインクルーシブな運動会や、ボッチャなども今はどこでも大会をやっている。ボッチャ大会をまず広げてきたが、今では各学校で積極的に取り組まれていて、学校でも大会がある。障害者当事者ももちろんやっており、作業所など様々なエリアで参加者がどんどん増えている。集まるのも、小学生チーム、社会人チーム、障害者の作業所チーム、老人会やＮＰＯなど、いろんな会の人たち。優勝すれば全国大会に出るという、競技スポーツ的要素もありながら、スポーツを通じて多様性を知る、認めるということに繋がっている。

奈良県が県として、パラスポーツや共生社会に関するプログラムを積極的に展開し、各市町村も行うという展開ができれば、一気に広がると思う。

千葉県もいくつかの学校に予算を付け、そうした体験型事業やパラスポーツをやっており、私も行っているし、さらに回れる人を養成する事業もやっている。地域の障害者の方々がやるだけでなく、パラスポーツを伝えることも仕組みとしてやっていかないと、やはり広がっていかないと思う。

先日スポーツごみ拾い、スポ GOMI の大会に出た。時間内にエリア内のごみを拾うとい

うもの。ポイントもプラごみや吸い殻など種類によって違う。全国大会、世界大会もある。スポーツなので、みんなで競争する。その結果、ごみ拾いへの行動の意識が変わって、私も今までも目の前のごみは拾っていたが、さらに遠くのところのごみまで拾いにいくようになった。スポーツの価値というのは本当にいろんなものがある。イベントの中でスポＧＯＭＩのようなコーナーを作ったりできるのでは。

もう１つ、「支える」というところでいくと、資料にも記載があるが、スポーツボランティアについて、国スポ全スポもあるので、今から積極的に仕組みとしてしっかりやっていく必要がある。特にパラスポーツのボランティアをすると、障害者理解に繋がってくるし、東京では今度デフリンピックもあり、新たに障害についての理解も広げていっている。そういうことをしっかり広げていくというのも、スポーツの価値となっていくと思う。

〔福西委員〕

私は地元で総合型のスポーツクラブをやっているので、その立場と、もう一つサッカーのプロではないがトップチームの運営もしているので、その２点から話をさせていただく。

まず総合型の方からいくと、部活動の地域移行の受け皿として、名前を挙げていただける機会も増えてきている。しかし部活動の地域移行というのはやはりスポーツをやっている人間の人口を減らさないことが大切。中学生で部活動をやるかやらないというよりも、中学生年代の子どもたちが、より多く、よりたくさんの種類のスポーツをできる場所を無くさないことが一番。

今は土日の移行ということだが、その先、完全に地域に移行されると、日頃からやっていくことになると思うが、それを総合型地域スポーツクラブが受けられるかと言うと、部活を全部受けるだけの馬力のあるクラブというのは、さほど多くはない。

企業がやったり、行政からの助成を受けたりすることで最初は運営できると思うが、長い目で見ると、総合型だけではなかなか受けられない。私の所属するクラブはまだ受け入れるだけの規模感はあると思うが、それは我々が指定管理をしたり、スポンサーを集めたりと、そういうこともやっているから。

規制の緩和がスポーツクラブ側にもあり、中学校の管理を総合型スポーツクラブがする事例が全国に何校かあり、実際に見にいった。指定管理をやることで、最終的には子どもからお金を取るか、自分がボランティアでやるか、行政から助成金をもらうか。選択肢は非常に少ない。ただ、子どもたちからお金を取るというのは、おそらくやる人は少ない。できるだけコストがかからないような方法を考えていかなくてはならない。我々も小学校の体育支援ということで、8 年以上体育の授業を受け持っているが、それをすべてボランティアでやれと言われると、おそらく続かない。何らかのお金を、自分たちで集めるか、子どもたちから集めるかといったことをする場合に、何か規制緩和があると、総合型の方でも様々な考えが出てくると感じている。県全体のことを考えて今後そういったことも何か考えていていただければ、受け皿としての総合型地域スポーツクラブももう少し出てくると思う。

あともう一つ、部活動は別にアスリートを育てているわけではないということ。例えばゆ

るい部活。管理はしっかりして、安全の担保は必要だが、何種類かの種目ができるような部活が存在することが、子どものスポーツ人口増加につながると思う。その子が 20 年後、親になった時に、スポーツ好きの親だから、また子どもがスポーツをするというような循環ができる。

もう一つ、先ほど朝原委員もお話されていたが、スポーツがあまり好きではない方がスポーツをするアイディアとして、我々がずっとやっていたことになるが、橿原のあるニュータウンで、3 世代の方々の体力測定を長年していた。地域の民間の接骨院の方に 5 社ぐらい出てもらい、3 世代で来たらタダで受け入れるとした。彼らは自分のところの宣伝をしたいので、1 日ぐらいであれば来てくれる。それを長年続け、大学と一緒にボールを転がした飛距離等のデータを取った。それを毎年やると、4 年目ぐらいからは、リピーターの方が非常に増えてきて、継続的に来られるようになったので、良い方法かなと思う。8 年目ぐらいで橿原高校の生徒会にすべて委託し、続けられなくて今は無くなったが、そういうアイディアもあるのでは。

先ほど国体の施設の話がいろいろ出ていたが、スポーツは陸上や球技等様々な競技がある。野球だけは野球場が必要だが、それ以外はアリーナでバレーや卓球等様々なスポーツができ、陸上競技場のグラウンドではサッカー、ラグビー等もできる。

私のお願いも兼ねてになるが、やはり奈良県に 1 ヶ所ぐらいは、全国大会を毎年開催するというのは無理であっても、それにそぐうような施設はあってほしい。そして、やはりそれなりのものであること。先ほど松下アドバイザーからもお話があったが、後にかかるコストのことを考えて最初から諦めるのでは寂しい。奈良クラブも、三浦知良選手が来たからとはいえ、屋根の上で見ている観客も多いぐらい観客が来たり、埼玉では、県で一番大きなスタジアムが満席になったりしたこともある。そういうことも、頑張ればできないことはないと思う。

特にアリーナは、そこにエンタメがある。バスケットの時の音楽や、コンサート、展示会。先ほど言われたデジタルなども踏まえて、みんなで真剣に考え、先ほどの県の事例のようなスピード感でいけば実現できるのではないか。一つくらいは、すべての競技ができるような施設ができれば嬉しい。

〔亀田委員〕

資料 7 の自然、歴史等の特性を活かしたスポーツの推進というところで、いろいろと県もやられている。

橿原市には実は本格的な山がない。なので、他市町村と連携して、来年をめどに 100 キロマラソンをやろうと、今計画を練っている。天理から桜井を越えて、談山神社を越えて吉野に入るようなルート。全国でも一番アップダウンのきついコースになるのではと思っている。今は 42.195 キロでも足りないというアスリートがたくさんいる。いろんな歴史遺産を巡ることもできると思う。

もう一つ、きっかけづくりというところで、千葉委員や朝原委員のようなトップスアスリ

ートにいろんなところで教室をしていただけるのはありがたい。

橿原市にもリオオリンピックでダブルスで金メダルを獲ったバトミントンの高橋選手がいるが、毎年この時期にドリームカップという、県内の小学生のバドミントン選手を集めて大会を開いてくれており、今年で３回目になる。

また、きっかけづくりからは少し外れるが、去年から県内の優秀な選手を集めて、将来のメダリストを目指して養成しようとアカデミーも作ってくださった。特にバドミントンをやっている子どもたちは、目がキラキラしている。トップアスリートに教えてもらえる、一緒に何かできるということは、非常に意義深いと思う。

また、橿原市は歴史深く、弓道が盛んで、民間企業と一緒に弓道の体験会をしているが、ドラマか何かで弓道かアーチェリーを題材にしたものがあったそうで、女性の関心が非常に高く、すぐに満席になる。そうした流行りのものや、その地域に根づいているスポーツを、民間企業と一緒にコラボしてやっているという紹介をさせていただいた。

また、福西委員にもご協力いただいているが、橿原市の運動公園の人工芝で、メジャースポーツだけでなくマイナースポーツ、あるいはウォーキングなど、いろんな方が参加できるスポーツエキスポというのを、民間企業とコラボしてやっている。子どもたちを対象に、少しでも早く走る方法なども教えていただいたが、みんな非常に熱心に取り組んでいた。こういう取り組みも良いのではと思っている。

また、これからの話になるが、スポーツをする人にもインセンティブを与えられないかということで、スポーツだけではないが、ポイントを付与するような取り組みができないかと研究している。スポーツで言うと、例えば市民体育大会への参加者が減っているので、大会に参加したら何ポイント、優勝すれば何ポイントとしたり、毎日 1 万歩歩いたらポイントをあげたり。スポーツをしている人は結構いるが、大会には参加してくれない。なので、1つのインセンティブとして与えたらどうかなと。

それだけでなく、ボランティア活動をしたり、公共交通機関を使ったりすることでポイントがもらえるような、そんなことも全部組み入れてやろうとしている。何かきっかけになれば。ポイント制も導入し、そのポイントは地域のお店で使えるような通貨にしたいと考えたり、歩けば歩くほどお金が貯まるというような仕組みを作ってみても面白いかなと思っている。

スポーツツーリズムの取り組みも紹介させていただくと、シニア向けの一泊するサッカー大会をしていただいて、橿原神宮も参拝してもらうような、観光資源とスポーツを融合させた取り組みも、進めているところである。

スポーツコミッションも立ち上げてもらったが、コロナのこともありほとんど動けていないのが実情。福西委員も昔から熱心にやっていただいてたものが止まっているが、コロナも５類になったので、できるだけ機動的に活用したいと思っている。

最後に一つ、きっかけを作る、あるいはスポーツに親しんでもらおうと思うと、やはり身近にプロスポーツが見れる施設が必要。奈良県はプロ野球の一軍の試合が見れるところもなければ、Ｊ１の試合が見れるところもない。トップアスリートの試合を見れる会場がない。

先ほどもあったが、この 50 年に 1 度あるかないかの国体の時に、奈良県でも、阪神巨人戦が見れるとか、J リーグの試合が見れるとか、バスケットバレーボールのトップリーグの試合が見れるとか、子どもたちに大阪まで行かなくても見られるような環境づくりをしてあげることが、新たなスポーツのファンを作ることに繋がると思うし、自分もやってみようと思う人も生まれると思う。

プールについても、スイムピアができたのは良かったが、水泳をやっている子どもたちに聞くと、夏場はスタート台に立つと熱くて火傷しそうだと。観客席に屋根はついたが、国際試合をやるには少し足りない。このようなことがないよう、今回のスポーツ施設の整備をしっかりとやっていただきたい。くどくて申し訳ないが、このチャンスを逃したらもう無いので。ぜひお願いしたい。

先ほど阪口先生がおっしゃった、人口減少ということもある。財政の問題もあるが、工夫次第でできるように思うので、知恵を絞りながら良い施設を作っていくことが、スポーツに親しむ、スポーツの仕組みづくりに繋がるのでは。

最後に、ナイトランの実施曜日を木曜日も増やしていただき、御礼申し上げる。私も活用させていただきたい。

〔原田会長〕

今、弓道が野球、サッカーに続いて人気である。「ツルネ」というアニメーションが爆発的にヒットしたようで、女子高校生の間で非常に人気がある。なかなか良いところに気づかれたと思う。

〔阪口委員〕

3 ページの選手の育成のところで、選手を育成するにあたり、ピークをどこに持っていくのかということが大事。そしてそれは種目によって異なる。

慌てて早くすると成長を阻害するとか、関節を痛めるとか、そういう問題が出てくる。中学生を教えたことがあるが、あまり負荷をかけて長時間練習をさせない方が、高校に行ってから伸びるという考えを持っていたので、そのような指導をしていた。

もう一つは、部活動とも関連することだが、文武両道であるべきだということ。私自身は大学時代に、三段跳びの金メダリストの田島直人氏がコーチで、ドイツ語も教えていただいた。50 年経っているが、お話された内容は非常によく覚えている。こういう方が良いと尊敬していた審議会に朝原委員、千葉委員もおられるが、私もよく知っている。すごい方だと思っている。こういう方に奈良県の子どもたちにいろいろ指導していただくと、こういう選手になりたい、こういう人になりたいという手本になると思うので、今後も引き続きよろしくお願い申し上げる。

〔松下アドバイザー〕

スポーツツーリズムについて、この計画の中で目立つようになり、非常に望ましいことだ

と感じている。特にツーリズムをリードするコミッションは非常に重要。
　ランニング、マラソン、ウォーキングのほか、スポーツツーリズムの参加型ツールの代表であるのが、トライアスロン。事務局への質問だが、奈良国体におけるトライアスロンの会場地はどこでやるのか。ランニングは一般の道路でできると思うが、スイムだけは、水質上の問題や安全上の問題があり、非常に難しいと思う。そしてスイムを選ばれたところは、せっかくなのでそれをツーリズムの中に入れ込んで、定例的なトライアスロンのイベントをやっていくというような考え方に、レガシーを含めて持っていくべきではないか。検討いただければ。

〔木村次長〕
　松下アドバイザーの質問に対してお答えさせていただく。
　国スポに向けてのトライアスロンについては、会場はまだ正式には決まっていないが、山添村と協議を進めているところ。スイムはダムを活用できないかと考えており、ダム管理事務所にも協力いただき、水質検査等をやってもらっている。できれば山添村で開催できればと思っている。
　村長とも話をしているが、それをきっかけに、山添村に大会の誘致などができればと思っている。ただ、中央の団体等と協議が整っておらず、山添村での開催はまだ正式決定ではない。

〔蝶間林委員〕
　福西委員が先ほど言われた、地域総合型スポーツセンターの中で、子どもたちにいろんな種目をやらせるという考え方について、とても大事なことだと思う。
　スペインのバルセロナにナショナルトレーニングセンターというのがあり、そこは世界的に活躍する選手の発掘を目指しているところで、6 歳から 16 歳までの子どもが合宿形式で暮らし、個人スポーツを主に様々なスポーツをやらせている。そこではテニス選手にホッケーをやらせたりと、単一種目だけをさせているのではない。
　福西委員のお考えを奈良県の中で進めていただき、子どもが将来のトップスアスリートになれるような下地を作ってほしい。
　もう 1 つはボッチャについて。パラスポーツであり、そして親子がコミュニケーションを取れるスポーツだと感じる。ボッチャのボールを離すのはかなり運動の質を高めるものだと思われる。親子で一緒にやることができれば、あまり場所も取らないかもしれないので、工夫すればボッチャを中心に、パラスポーツを通じて一般の人たちとの連携、共生ができるのではと思う。

〔川手委員〕
　奈良県には水泳施設があまりなく、簡単に水中ウォーキングができるところもない。橿原市役所が今度新しくなるので参考に申し上げると、例えば橋本市などは、市役所内にジムが

あり、常時ではないが理学療法士もいる。病院も、昼間はリハビリテーションをし、夜はジムに開放する、そういうやり方もあるかと思う。

田原本町にはウォーキングポイントのラリー制度がある。ファミリーマートなどと提携してポイントをつくようにすれば、たくさんの方が歩いてくれると思う。

最近の患者さんの中には、いかに健康であった頃の状態に戻せるかという意識で運動される方が多い。

〔原田会長〕

皆様方の意見は奈良県の今後のスポーツ振興施策に非常に参考になる。その中でも、スポーツコミッションができれば、行政が直接できないことを委託して様々な面白いことができると思う。特に、インナーの政策とアウターの政策を同時展開できる。インナーは、奈良県民の健康づくりのための様々な施策を打つことができ、アウターでは、イベントを開催して外から人を呼んできて、経済効果を得るということも可能になる。

皆さんからお話のあった、スポーツゴミ拾いや、アプリを活用したウォーキングのポイント付与の話に関連すると、スポーツまちづくりの中で、ゲームを使ってみんなを健康にしようということで、横浜健康ポイントというものが独自のアプリを開発して、ウォーキングの歩数を計ってポイントを付与している。そういうことがきっかけとなり、行動習慣が変わって動いていくということがある。

さらに日本郵便株式会社では、松田社長のアイディアで、郵便局を健康づくりの拠点にできないかといった動きが始まっている。例えば、「ふらっと＆ちょこっと運動」と郵便局で、全国に先駆けた事例を検討してみては。郵便局は高齢者のお宅で実際の見守りサービスなどをやっており、それを 1 歩前に進めた企画をしていると聞いている。どこに行っても郵便局は必ずあるので、山間部の郵便局でそういったことも可能になるのでは。

〔田中委員〕

子どもの運動に関して、2000 年から始まった「運動器の 10 年」という世界運動をご存知かと思うが、その流れを組む運動器の健康・日本協会というものがあり、本年度からスクールトレーナー制度の試行をはじめている。これは理学療法士の方がスクールトレーナーとして学校に入り、運動器検診やクラブ活動をサポートするというものである。今後全国展開されると思うので、奈良県も先駆けて学校にスクールトレーナーを置くことができれば、非常に良いのでは。

もう一つ、先ほどスポーツツーリズムの話があったが、奈良県立医大ではメディカルツーリズムも検討している。南阪奈道路を活用して関空からドア to ドアで来れるので、そのようなツーリズムも考えていただきたい。スポーツツーリズムと合わせて医療ツーリズムも将来的に発展させていければいいのではと思う。

〔松永委員〕

スポーツ目的で来る人ではなく、たまたま訪れたところでもスポーツができるという仕掛けは、単独のスポーツ推進計画だけではできない。足立区では、文化芸術の推進計画、読書の図書館関係の推進計画、そしてスポーツ関係の推進計画の 3 計画について、会議体も合同で行われ、計画も併せて作成されている。単独の部署だけでできることには限界があるので、部署を横断して連携する仕組みづくりをしていかないと、おそらく持続しない。奈良県は組織体制を工夫されているので、部署間連携の際の連携する部署側の計画内容を把握し、調整していくことが必要だと思う。

〔加藤委員〕

アリーナに関して追加で発言したい。阪口先生から、30 年、40 年後に人口が減ってくる中で、コスト負担を残さないようにというお話があったが、まさにその通りである。アリーナの規模がある程度以下になると、収益はほとんどなく、ほぼ全額が維持費になり、それが全て行政負担になる。今のジェイテクトアリーナがその状態に近いのではと思う。

我社など、ごく一部の利用者が少し高い使用料を払っているだけで、ほとんどがアマチュアスポーツでの使用であり、それほど高い使用料を払っているわけではないと思う。そうすると維持管理費はほぼ全額行政負担で賄っていかないといけない。

一定規模以上のアリーナの場合、例えば音楽イベントであれば、500 万、600 万程度を払ってくれるイベントがある。経済界のコンベンションのようなものがあれば、同じような金額の使用料を払ってもらえる。もちろん管理コストは上がるが、逆に収益が出てくるので、行政負担自体は少なくなっていく可能性が高い。

そういう意味も含めて、小さい規模にすると、将来に禍根を残す施設になりかねない。価値を生み出す施設をしっかり想定した方が良い。

また、一定規模以上の施設にすると、県外から大勢の人が来るイベントが開催でき、県内への経済波及効果も生まれる。一定規模以下になると、それはほとんど見込めない状況。そのラインを超えないと、非常にもったいない政策になりかねない。そういった観点も含めて検討してほしい。

〔千葉委員〕

プールがそうだと思う。プールは水道代、光熱費が上がっているので、これからつぶれていく一方だと思う。水泳人口も減っていくが、今後、年配の方だけでなく、身体障害者の方たちもリハビリに使えるようなプールが、もっと増えてほしいし、需要も出てくると思う。

奈良にはスイムピアがあるが、プールを作ったにもかかわらず、予算がなく屋根を付けなかったことで、夏は暑くて熱中症で人が倒れ、冬は泳げないので合宿ができない。屋根を付ける費用が掛かったとしても、設置したことによって、おそらく全国から合宿での利用が相当来ていたと思う。費用もペイできたのでは。試合ももっとできて元が取れたと思う。

お金が無いから中途半端な適当なものをつくると、逆にお金がかかり、マイナスばかりだということがある。せっかくつくるのであれば、屋根付きで、試合以外の時にも合宿に来て

もらえてお金を取れるような、最低限度の設備のあるプールを考えていただきたい。
栃木に身体障害者の合宿に行った際に、栃木県では国体があったので新しいプールになっていたにもかかわらず、車椅子の方が入るトイレのドアの幅がぎりぎりで、全然リハビリができない、1人しか入れないようなトイレだった。ただつくるだけでなく、使う人たちが実際に使えるようなものでなければ意味がない。バリアフリーや、手すり、トイレの高さにしても、健常者に合わせた高さのものでなく、障害者の人も使えるようなものを最初から作っておかなければ意味がないと思うので、そのあたりをよろしくお願いしたい。

〔原田会長〕
資料4に、陸上競技場、野球場も、それぞれリニューアル整備されるとあるが、仮に多目的広場を陸上競技場のサブトラックとして 2 種公認ぐらい取れば、近畿大会の誘致ぐらいはできる。
特に和歌山の南の方の選手にとっては北の方への移動が大変だと聞いているので、県南側の拠点としてこの陸上競技場と、多目的広場をサブトラックとして整備してはどうか。

〔木村次長〕
私の方から、感想と意見も踏まえて、少しだけお話しさせていただきく。
冒頭、スポーツ施設の整備方針について、担当の宮﨑の方から資料4をもとに説明させていただいた。方向性は決まったが、これからどうしていくか。今日皆様から多数いただいたように、アリーナの規模、機能、これが大きな課題になってくるということは十分認識している。しっかりと利用者のニーズを把握したい。
一方的にこういう素案になったと報告するのでなく、利用者の意見を聞いて、もう少し工夫しておけばこうできたのに、というところをしっかりと取り入れて、施設利用者に、できて良かったと言ってもらえるようなものを作っていきたい。
スポーツ以外にも、コンベンション機能や、ちょっとしたコンサート、防災機能を持たせてはどうかということを方向性として打ち出したので、その辺りも含めて、橿原公苑の整備について、今後も審議会で途中経過を報告させていただきたい。
毎回ご意見をいただいている無関心層をどうしていくかということには、蝶間林委員からきっかけに関してや、朝原委員からは出かける用事を作るというご意見をいただいた。
資料 2－8 に記載の「ふらっと＆ちょこっと運動」について、これから始めるにあたり、うだアニマルパークとあるが、これは子どもが動物と触れ合うような場所である。もう1つが、平城宮跡歴史公園で、文化施設である。本来スポーツ、運動をする場所ではないが、こういったところは、子どもだけで行くということはなく、必ず親子連れだと思うので、そういう場所から始めることにした。県内でさらにこういった場所を増やしていきたい。
高齢者への対応については、千葉委員にご協力いただき、山間の方で開催している。私も同行しているが、参加しておられる高齢者の方、特に女性は、千葉さんと話しができるだけで元気が出ている。全く体を動かさなくても、話して笑っているだけでも元気になっている

ように感じる。トップアスリートの影響力というのは、やはりそういうところにもあるんだと感じている。これからも引き続きご協力をお願いしたい。

県のスポーツ推進計画は、今年度から令和 9 年までの 5 年間の計画。計画を策定する当初から担当しているが、でき上がって皆様に報告させてもらう時、作った以上は責任を持って取り組むべきであり、その責任は大変だと感じている。計画に記載したことを本当にできるのかということについて、様々な方面から多数の意見をいただいている。我々行政の方で気づかないような意見もある。皆様からいただいた意見が無駄にならないよう、一生懸命取り組んでいくので、今後ともご協力をお願いしたい。

〔西川課長補佐〕

・閉会

以上の事項は、事実と相違ないことを証明する。

令和６年　４月　２４日

議事録署名人

蝶間林　利男　　印

議事録署名人

福西　達男　　印

※署名、押印された原本は別途保管